



今月新しく 入りました。

●一般の本

／アバター (作=山田悠介) / 天地明察 (作=沖方 丁)
／花や散るらん (作=葉室 麟) / 円朝の女 (作=松井今
朝子) / 狙われたキツネ (作=ヘルタ・ミューラー) / 鉄の
骨 (作=池井戸 潤) / 殴る女 (作=荻野アンナ) / ボーダー
& レス (作=藤代 泉)

●子どもの本

／どっちがへん? どっちがどっち? どっちがピンチ? (作=
岩井俊雄) / びんぼうがみとふくのかみ (作=富安陽子) /
ミスターカーリーとまほうのスパイス (作=ますいさくら) /
おいしいかぞえうた (作=岸田衞子) / ほくもだっこ (作=
西條剛央) / うずらちゃんのかくれんぼ (作=きもともこ)
／だれのあしあと (作=ふくだとしお)

中でもこの本が オススメです。

見えない貌

作=夏樹静子



行方不明になった娘は、無惨に殺されて
いた! 事件を追う母親、日野朔子は
「メル友に会いに行く」という言葉と残
された携帯電話からある男にたどりつ
いたが…。思いもかけぬ第二の事件が
発生する。現代のゆがんだ「道具」と
人間関係の中に描き出された親子の絆
とは? 命を奪われたわが子への究極の
愛。現代の親子の絆の哀切を描く。

かかしのじいさん

作=深山さくら



かかしのじいさんの仕事は、すすめを
追い払うこと。なのにすすめは自由に
空を飛び回り、じいさんは見上げるだ
け。すすめは、じいさんを慕ってやっ
て来る。そしてじいさんもいつかす
すすめを待つようになった。ある日、お
百姓さんがすすめを捕まえるために、
かすみ網をかけようと言った。それを
聞いたじいさんは…。お互いを思いや
る気持ちが感動を呼ぶ絵本。



動物と向きあって生きる

作=坂東 元

この本は、旭山
動物園獣医
である著者
が園の運営、施設づく
り、獣医としての役割
などを綴った本です。
はじめにあっていた
著者は自然の中に居
場所を見つけその後、
動物園に就職しまし
た。かわいい、かわい
くないで分類して動

物を見る人間の身勝
手な行動で結局射殺
されるヒグマ。「動物
本来の姿を見てほし
い」「生き生きと過ご
せる空間で生きてほ
しい」という視点から
動物園づくりを始め
ました。人間だけが特
別ではないのです。動
物を見る目が違っ
てきますよ。



クイールはもうどう犬になった

作=こわせたまみ

この本は、ク
イールとい
う名前の犬
の話です。クイール
は盲導犬。目の見え
ない人たちを助けて
働いています。いろ
んな人間関係の中
で人の温かさを知ら
ながら成長していく
のです。秋元氏の写真
は自然で素朴な、そ
して歩行時の真剣な

まなざしと優しさが
あふれている犬の姿
があります。動物か
ら与えられる優しさ
に動物と人間のかか
わりを改めて考えさ
せられます。

春の桜、夏の花、秋の紅葉、冬の雪…。
美しい四季が体感できるのは日本人の特権。
そんな私たちがだからこそ、
読みたくなる「一句」の本があります。
シリーズ「一句」の本がテーマに
1冊の本を「人間と動物」をテーマに
2冊の本を「紹介」します。
紹介者は矢野百合子さん(いずみ読書会)です。



調子はいかが？

町立病院 ☎42局1231番



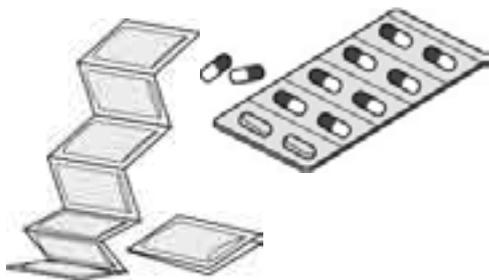
ADVICE Health



子どもに風邪をうつしてしまっただけです。症状も私と同じなのでくすりの量を減らして飲ませてもよいでしょうか？（40歳・女性）

【飲み残しのくすりの使用は？】
冬は病気にかなりやすい季節ですので、風邪ぐすりなどの飲み残しのくすりがあるご家庭も少なくないことと思われま

す。医師は患者の症状、病気にあわせてくすりを処方します。同じ発熱でも原因となる病気が同じだとは限りませ



【アドバイザー】

渡邊和則さん・わたなべかずのり 昭和52年8月から町立病院に薬剤師として勤務。平成元年4月に薬局長。55歳。

症状が同じでも大人には安全なくすりでも、子どもには危険なくすりとなる場合があります。自己判断では使用しないでください。

ん。大人には安全なくすりでも、子どもや妊婦には危険な薬があります。また、アレルギー体質など問題もあるので症状が同じだからといって、以前に使用して残ったくすりを自己判断で使用してはいけません。

坐薬（解熱剤）なども年齢や体重によって用量が違ってくるので、インフルエンザによる高熱には使わない方がいい解熱剤もあり、大変危険です。

「くすりの適正使用協議会」が2009年8月に行った小中学生の保護者九百人を対象に「医師の指示どおり正しく、くすりを飲んでいるか」を調査したところ、子どものくすりに関しては9割以上の人が目の前でくすりを飲ませるなど、間違った服用をしないよ

う気をつけていたが、自分のくすりでは飲み残しを72%、家族の余りの服用を40%が飲んだことがあると回答されています。

【くすりの効力】

冬は感染症の多い時期ですが、処方された抗生物質や抗菌剤を症状が改善したと自己判断でくすりを飲むのを止め、「余った分は保存しておく、同じ症状が出たときに再度使う」と回答された人も多いようですが、抗生物質などは、服用中断により生き残った病原菌がくすりに対して抵抗力をもち、くすりの本来の効果が十分に発揮されず、症状の悪化や治療の長期化の一因となる場合があります。

【くすりは正しい飲み方を】

くすりを正しく飲んでいただくために、患者さんはなぜ



くすりの服用が必要なのか、治療で何が期待できるのかを理解していただくのが大切です。「くすりは、正しく飲んでこそ、くすりです」くすりについて、わからないことや疑問に感じていることがありましたら、お気軽にご相談ください。